

前回審議会、パブリックコメントを踏まえた主な変更点

（審議会意見①）

- ・スポーツの定義の具体例に体育を含めない方が良いのではないか。
- ・こどものスポーツ実施率の評価指標に「1週間の総運動量が60分未満の児童・生徒の割合」を下げるとあるが、体育の授業は週3日ほどあるため、体育の授業を含めると指標の数値が変わってくる。

（対応①）

具体例から「学校教育における体育の授業」を削除しました。指標についても、学校での体育の授業時間は除いています。

（審議会意見②、【パブコメ意見】）

身近な地域で子ども達が気軽にスポーツに取り組めるよう、市として支援していくことが大切。

（対応②）

基本施策1「子どもが楽しくスポーツに取り組める機会の提供」の本文中に、「身近な地域でのスポーツの場の確保」の文言を追記しました。

（審議会意見③）

スポーツのきっかけづくりも必要だが、アスリートの育成についても言及すべき。

（対応③）

基本施策1～3に「大会の開催、アスリートや民間事業者との連携の強化」の文言を追記しました。また、基本施策9において、「大会に出場するアスリート支援」（奨励報奨金）を記載しています。

（審議会意見④、【パブコメ意見】）

子どもも重要であるが、市のプランとしては多世代のスポーツ振興も必要。成人のスポーツ振興のためには民間との連携を検討してほしい。

（対応④）

基本施策2「成人が体力や志向に応じてスポーツに取り組める機会の提供」に「民間事業所との連携」の文言を追記しました。

（審議会意見⑤）

障がい者だけでなく、高齢者についても、スポーツ機会の確保策として「eスポーツ」を含めると良い。

（対応⑤）

基本施策2の取組の方向性②「高齢者のスポーツ機会の創出」に「eスポーツの活用」の文言を追記しました。

（審議会意見⑥、【パブコメ意見】）

わがまちアスリートが将来枯渇しないよう、長期的な視点に立ち、市内でタレントを発掘していくこともプランに記載した方が良いのではないか。

（対応⑥）

基本施策4「本市ゆかりのアスリート・トップスポーツチームとの交流の推進」の取組の方向性に、「アスリートやスポーツチームに関する情報収集」の文言を追記しました。

<p>(審議会意見⑦)</p> <p>「する」スポーツツーリズムを推進したいのか、「みる」スポーツツーリズムを推進したいのかが読み取りにくい。</p>
<p>(対応⑦)</p> <p>基本施策6「地域活性化に効果的なスポーツツーリズムの推進」の取組の方向性を、「する」スポーツと「みる」スポーツで分けて記載しました。</p>

<p>(審議会意見⑧)</p> <p>スポーツツーリズムの推進について、地域の観光資源をスポーツに結び付けて利用するという視点がない。</p>
<p>(対応⑧)</p> <p>基本施策6の取組の方向性「「する」スポーツに関わるイベントの誘致とイベントを契機とした消費喚起」に、「観光資源等を生かした市内周遊及び消費・宿泊の促進」の文言を追記しました。</p>

<p>(審議会意見⑨)</p> <p>基本施策7「スポーツ人材・組織の基盤の強化と連携の推進」についての指標が「人材」に関わるものだが、組織に関する評価指標も入れるべき。</p>
<p>(対応⑨)</p> <p>基本施策7を「スポーツ人材の育成と関係団体との連携強化」に修正し、「地域スポーツクラブの活動中学校区数」を指標に追加しました。</p>

<p>(審議会意見⑩)</p> <p>基本施策9「スポーツ活動を支える仕組みづくりの推進」の評価指標が施設の利用者数となっているが、仕組みづくりを測る指標として適切か。</p>
<p>(対応⑩)</p> <p>施設の利用者数は、基本施策8「安全・安心・快適で利便性の高いスポーツ環境の整備」の評価指標としました。また、基本施策9を測る評価指標として、「市民活動奨励報奨金の交付件数」、「とよた地域クラブ活動・地域スポーツクラブの指導者数」を設定しました。</p>

<参考：前回審議会から変更した評価指標>

基本施策	変更前	変更後
7 スポーツ人材の育成と関係団体との連携強化	⑪スポーツを「支える」活動をした市民の割合	⑪スポーツを「支える」活動をした市民の割合
		⑫地域スポーツクラブの活動中学校区数
8 安全・安心・快適で利便性の高いスポーツ環境の整備	⑫スポーツ施設、学校施設の利用満足度	⑬スポーツ施設、学校施設の利用満足度
		⑭スポーツ施設、学校施設の利用者数
9 スポーツ活動を支える仕組みづくりの推進	⑬スポーツ施設、学校施設の利用者数	⑮市民活動奨励報奨金の交付件数
		⑯とよた地域クラブ活動・地域スポーツクラブの指導者数